平成27年度第2回熊本市中央区まちづくり懇話会 議事録（要旨）

【日時】：平成27年7月27日（火） 15：00～16：30

【場所】：熊本市役所議会棟2階 議運・理事会室

【出席委員】：15名出席

古賀会長、杉光副会長、芥川委員、阿久根委員、今坂委員、岩崎委員、草野委員、佐竹委員、高智穂委員、田口委員、谷口委員、鳥崎委員、榊田委員、南委員、安永委員、

【議事要旨】

1・開会

2・議事

（1）平成27年度まちづくり事業の進捗状況について（報告）

（古賀会長）平成27年度まちづくり事業等（進捗状況）について事務局より説明をお願いします。

（事務局）（資料1）に基づき、平成27年度の進捗状況と平成28年度の事業見通しを説明

【質問・意見】

（古賀会長）会長、質問、ご意見等はないか。

（古賀会長）中央区防災キャラバンについて、今年度募集がゼロということだが、どういったことが応募のない原因、理由だと事務局は考えているか。

（総務企画課）中央区校区連絡会議などでお知らせしているが、まだ皆さんにこういうことをやっているということが浸透してないのではと考えている。

明後日から危機管理防災総室が主催する防災研修会に同席するので、そこで自治会長や自主防災クラブの皆さんに、このようなことをやっているということを周知したいと考えている。これまで開催したところでは好評で、もう一度やりたいというお声もある。こういう事業をやっているということを周知することで、もっと手があがるのではと考えている。周知をもっと一生懸命やっていく。

（田口委員）防災キャラバンについて、校区ではやってないが、各町内会や老人クラブなどの団体ではやっている。校区でまとめるのは難しいところもあるが、町内単位とすると集まるのではないかと思う。

（総務企画課）おっしゃることは十分理解するところなので、こちらで検討したい。

（古賀会長）まちづくり懇話会では、校区単位での取り組みを複数の校区につなげていくということが基本的な考え方。どのような形でそのスタートを作るのかということについては、相談してほしい。

（杉光委員）中央区のお宝探検事業で、資料に、校区の負担感も大きく、負担の少ない形で実施できるようにすると記載があるが、現実的にどのような負担があるのか。負担が大きくて実施希望が少ないということ、カルタとの事業との統合とも記載があるが、この部分について説明していただきたい。

（まちづくり推進課）昨年度、一新校区で実施したが、他では実施ができてない。昨年から、いろいろお声かけをしているが、実際、自分たちの校区、町の中で皆さんに紹介できるような資源を探すこと、また、どういうものがお宝なのかという認識、打ち出しが非常に難しいと考えている校区が多いよう。こういうのがお宝としていいのではと話をしながらできていけばと思っている。

(杉光委員) 今の話だと校区の中で、お宝だと思われる資源を探すのが難しい、校区のお宝を探すのが負担ということ。逆にいえば、校区の子供たちの目線で校区のお宝は何かなど、目線の切り替え、そういった切り口は校区の皆さんとの話しには無かったのか。

(まちづくり推進課) 今までのところそういう子供たちの参加、子ども達の視線についてはアプローチしていないと思う。

(今坂委員) 校区の負担についての感覚が違うと思う。お宝がないというようなことではなく、校区の負担とは、人を集めて、文書を作って、各種団体に根回しをして、事業をするということを誰がするか、どこの団体がするのかということ。既存の事業があり、これにまた何か増えるというのが負担。お宝探検は、本当にやる気があればできる。帯西は何もないが、何でもない小さなことを集めて、ウォークラリーをした。その気があれば、お宝などはささいなものでも事業はできる。

防災キャラバンについても、帯西では、お父さんなど PTA の OB がした。自治協では、人を集めて、文書作ってとなるとなかなか難しく、負担が大きい。

お宝探検事業は、行政が文書を作り、このような声かけをするとなると、随分違う。文書作成や募集が負担だと考える。

(鳥崎委員) 大江校区では、26年度、初めて校区歴史探検をやって50人くらい参加があった。主催者の一人として、結局、お宝探検事業と同じだと後でわかった。もし、まちづくり事業として応募をして、書類を作って最終的に報告をしなければならなくなると、かえってやらなかったのではというのが率直な意見。ちらしを作ったり、コースを決めたり当日実施する交通安全の配慮は、もともとやりたいと思っている人が集まっているのでそんなに大変ではない。それに付随して発見しなければならない、共有をしなければならないなど、後に何かしなければいけないのかなという感覚としての負担感がある。今年も大江校区では歴史探検をやるが、こういった助成金という枠ではなく皆で好きなようにやろうと先日の春の総会で決まった。

(佐竹委員) お料理のレシピをネット上で集める会社が、サブブランドとして、お出かけ情報を発信するサービスをはじめた。自治体と一緒にワークショップを開催し、住民の皆さんを集め、お出かけプランや魅力的なルートを一緒につくり、インターネット上で、その地域の情報を発信してもらうという取り組みを実施している。そういう民間会社と連携することで、文書をつくるのが大変というのを、ワークショップでわいわいつくりながら、お宝がみんなのものになるというやりかたもあると思う。

(古賀会長) お宝探検事業は、3年前に始まったときは、一新校区で続けられてきたことがベースだが、お宝発見が目的ではなく、お宝を発見しようというテーマで、皆で集まってわいわいやろうという手段となればということから始めた。そういった意味で、皆集まってどうするのというときに、ワークショップをやるなどというやり方が浸透したが、ワークショップをする手間や人集めや場所の確保などその辺りのハウツーをどのように支援できるのか事務局で検討してほしい。新しい総合計画づくりのワークショップをしているが、ワークショップは敷居が高い、だから参加者が少ないと思う。お宝探検は先ほどのウォークラリーや、福祉の観点で電動の車椅子で回るなどいろいろな手法がある。皆でお宝を発見ではなく、地域の課題を皆で見つけましょうという趣旨を踏まえて、まちづくりの担当課で、ワークショップは難しくない、まちづくりのプロセスだということを説明し、自治会の負担感そのものを減らしていく。

また、文書は一回できたら使い回せばいい、そのことについて、昨年度取り組まれたところの雛形を準備するなど、具体的に身近なところの知恵出しを検討する。中央区お宝探検事業は、新しい住民を誘い込む重要なツールだと思う。今後とも事務局で検討いただきたい。

(田口委員) お宝という名前が皆ぴんときてない。出水南では、「自然と歴史の文化の会」という活動を15年前からやっているが、昨年、出水南地区のいろんな歴史、遺跡など全部調べあげ、海だったと

いう話や縄文時代の話、国府ができるなど、現代に至るまでの話を掘り起こし、小学校 6 年生の授業の中に取り入れてもらった。約 130 人の会員がいるが、分担し、説明をしている。これに最近はお父兄の方も来るようになった。地域のことを良く知ってもらうために地域をまず掘り起こすというような名前に変えてはどうか。お宝がないといけないということではなく、各地域に遺跡や文化などいろいろある。

今小学校で 3 年間続き、(当時の小学生が) 中学生になっている。このように、継続するとどんどん地域にひろまっていくと思うので今後も継続したいと思っている。出水南校区では、既存のものがあるので、提案には達してないというのが現状。

(南委員) 上からタイトルを示されて「やりなさい」や、「何か選んでやろうか」という呼びかけをすると、自治協議会のメンバーはいっぱい、いっぱい。なんとなく相手の顔をみながら提案をしていく。まちづくりの会で夏祭りを 18 年やっているが、これは、少人数の人間の中からやろうという人が集まりやっている。後は校区でやっているが、下から盛り上がったものと、こういうのがありますよといってもやっていただけないという違いはある。

(古賀会長) 今年度の目標は、お宝探検事業を広めていくということ。防災キャラバンも同じで、3 校区で実施をする。お宝探検も広げていく具体的な方法を、今日いただいたご意見を活用して参考にしていただく。

他の事業について何かあるか。

(芥川委員) 去年からアクティブシニア増殖プロジェクトに参加しているが、平成 26 年度は 3 月末に、平成 27 年度について自主運営をすとなり、やっている。8 月 1 日に黒髪校区のお祭りがあり、昨年アクティブシニアで実施した昭和の遊びを継承したいから、校区でやってもらえないかというお声があり、70 歳の方が手作りのおもちゃを作ろうということで、伝承遊びや肥後独楽の回し方などで参加することになった。

資料のアクティブシニア増殖プロジェクト事業をみて、平成 27 年度も継続していくということだが、26 年度のアクティブシニアの人達がいまだに一生懸命活動をしているので、一緒にできるような活動内容について、また、地域の活性化などのイベント参加について、区から予算に対して補助がいただけないか。

事前にどこの校区でやると申請し、それに対し例えばボランティア保険や材料費などの補助をしていただくと助かる。

(古賀会長) 保険についてはどう事務局は考えるか。

(事務局) 去年「昭和の遊び」ということでやり始めた。当初は地元に入っていくというイメージでいたが、昨年度末に、中心市街地で夜市にやりたいという話があり、中央区のまちづくり事業とは違うのではないかということで、平成 27 年度の計画を組み立てた。昨年度に、校区でやりたいということなら平成 27 年度実施していた。現状として、平成 27 年度の計画で実施して行く予定。今おっしゃったことは、当初、私達が考えていたことなので、まちづくり事業として趣旨は一致しているので、協力していけるところは協力していきたいと思う。

(芥川委員) 夕暮れ市をやっているが、アクティブシニアが実行委員という形になっているが、アクティブシニアは、夕暮れ市で「昭和の遊びコーナー」も無料でやっている。今後は、アクティブシニアとして「昭和の遊びコーナー」の展覧を重点的にやっていきたいと考えている。

夕暮れ市に関しては、街が元気になっていくように、桜町界隈の再開発にともない、県民百貨店や交通センターもなくなるので、街に賑わいを戻したいということで出展者も営利目的ではなくやっている。夕暮れ市は、前期が 8 月 1 日に終わる。後期はアクティブシニアと切り離れたところで考えていく予定。アクティブシニアとしては、本来の目的として、昭和の文化、遊びを継承していきたい

と考えている。夕暮れ市でもそのブースだけでも重点的にやっっていこうと思っている。

(古賀会長) アクティブシニア増殖プロジェクトについては、昨年度、一昨年度と、思考錯誤が続いた。鳥崎委員にも随分お骨おりにいただいた。今年度の事業は研修だが、ここで、研修された担い手を平成 28 年度どうするのかという問題を芥川委員から提案されたと思う。具体的にどういう場面で活躍してもらうのか、そういったところをもう一度、事務局と調整しながら、本来アクティブシニアが何を目指そうとしたのか、その中で昭和の遊びがツールとしてどれだけ有効だったか精査していただけないか。精査にあわせて同じ事業の中での費用のメリハリも可能であればよろしく願います。

(安永委員) お宝探検事業について、田口委員から、お宝がピンとこないというお話があったが、お宝を大きく捉える必要はなく、もっと身近なこと、例えば熊本なら水がお宝など、暮らしに基づいたものをお宝として捉えるといいと思う。構えることなく、参加してもらえればよいと思う。

(古賀会長) それぞれの校区で歴史遺産を大切にするなどやり方を決める、極端な話、地域でのお宝は地域住民として地域住民探しをするなどいろんなやり方がある。

地域の人が集まって何をしようかという議論のプロセスが大事。その結果として、何人かの方がおっしゃったように、小学校の学校の中に取り込まれるなど、授業づくりのサポートができるようになれば 200 点 300 点。その一番初めのステップということで今のご提案を受け止めさせていただく。

(2) 平成 28 年度中央区まちづくり事業アイデア提案について

(事務局) 資料 2 に基づき説明

【質問・意見】

(鳥崎委員) 資料 2 の 10 番の要件を満たしているかどうか注目して 1「中央区いきいきクーポン(仮称)の配布」の配布と、2「バイタルデータデバイスによる健康づくり」の提案は満たしていないことだが、3「ごみゼロキャンペーンウィーク実施による中心市街地の美化活動」について、要件のうち地域が抱える課題に対応していることとあるが、この地域というのは、あくまで中央区としての全体のことで、中心市街地だけでは該当しないのでは。

(古賀会長) 中心市街地だけなのか。

(総務企画課) 資料の 2 番に安政町や三年坂、城見町と書いてあるが、提案者の方はここにこだわっているわけではない、例えば水前寺地区や中央区内の他の場所を想定してもかまわないと幅広くとらえている。

(古賀会長) これまでも一新校区がいろいろやっっていて、その事業を他の校区に広げていくということで決定をしたこともあるので、3「ごみゼロキャンペーンウィーク実施による中心市街地の美化活動」提案もいいと思う。

(南委員) 3「ごみゼロキャンペーンウィーク実施による中心市街地の美化活動」について、町内自治会での全市一斉清掃と重ならないか。4「一緒に食べるとおいしいよ・・・」については、いい事業だと思うので、いきいきサロンと合同でやられてはどうかと思う。

(古賀会長) 具体的な話をすると、今回は、どれを採択するか決めないで、どんな提案があったかの紹介し、平成 28 年度事業としては、第 3 回懇話会 10 月に決める。その前段階として、今後、それぞれ具体的に進めるための計画を提案者にヒアリングをすることも必要に応じてある。重なるような行事があればどうするか、そのあたりについて、事務局に次の会議までの資料として準備いただいていた

か。

(阿久根委員) 去年の提案書に比べ、提案が詳しくなっていて嬉しく思う。4「一緒に食べるとおいしいよ・・・」はいいと思うが、いきいきサロンと重なっているところもあるので、提案だが、支援が必要な子供たち、見守りが必要な子供などをお声かけしていただければと思う。子ども達を巻き込むということは子ども達のために何かをするということで、需要と供給も一致する。特に皆でご飯を食べるとするのは有意義だと思うので提案する。

(古賀委員) そのことも含めて、提案者と相談する。4「一緒に食べるとおいしいよ・・・」については、食生活の団体の提案は、前回の懇話会の挨拶で、中央区は5区の中で一人暮らしの老人が一番多い、単独高齢世帯の課題をどうするかというのが中央区の一番の課題ではないかと申し上げた経緯がある。まず、高齢者、そして高齢者と子供たちを関わらせるにはどうするかというホップステップジャンプという形の考えではないかと思う。それを含めて、懇話会でこんな意見があったと提案者に伝える。

(谷川委員) 4「一緒に食べるとおいしいよ・・・」は、食べることは基本的なことでもいいと思う。先ほどの話があるように高齢者の方に対していろいろしているが、男性の方が来ないというようなことがある、子供に対する食育も大事、一緒にそのあたりを含めて、どういう形がいいかは私もわからないが、その内容も含め、一緒に楽しく食べるということ、食べ盛り世代と一緒に食べるということも含めて考えてはどうか。

(古賀委員) 1「中央区いきいきクーポン(仮称)の配布」と、2「バイタルデータデバイスによる健康づくり」についてご意見をいただきたい。この二つはこのような制度を作ってはどうかという制度についての提案。担うだけの主体が地域にあるかどうか総合的に考えて、この時点でただちに除外ということではないが、実施において課題があるという指摘をしている。これについてみなさんご意見があれば。

(鳥崎委員) 2「バイタルデータデバイスによる健康づくり」は、高齢者の活動をいろいろしている側としてはなかなか面白い。これをやるにはお金も必要だが、サポートするための有償ボランティアの仕組みをつくるというのが2「バイタルデータデバイスによる健康づくり」の具体的な取組み。このようなことが、無償ではなく有償ボランティアというのが議論の争点になるが、ある程度有償でもいいかと思う。これから生活支援というのが、高齢者対策では重要なポイントになってくる。介護保険が変わって、熊本市も平成29年から4月から生活支援を含めた相互支援をどうするのかという中、こういうアイデアが出てきて面白い。中央区として、西区にある団体が中心になってサポートの仕組みをつくるというのはどうかかわからないが、具体的にどのようにサポートの仕組みを作るのかというのが示されるともっと提案事業として充実すると思う。

(古賀委員) 提案者の「はちどり」は今年の4月から、YMCAの方が事務局長で始めた、あたらしい団体。2「バイタルデータデバイスによる健康づくり」は、企業が提案というのに驚いた。制度というよりマネジメントになっている。

(佐竹委員) NTTは熊本市と包括的な提携をしていることもあり提案をされていると思うが、バイタルデータデバイスは、企画が乱立していてどれが最終的に残るかわからない状況。ドコモ、ソフトバンクもやって、どこが決定的になるかわからない。NTTのものが今後どれだけ継続してやってけるのか、作ったシステムが、熊本でスタンダードになるか。以前、上通りは全国で最初にエディを取り入れた商店街だが、その後全国では、エディが使える商店街は、長崎のはまん街商店街などがあるが、今のところ交通自動車系のICカードのほうが使い勝手の良さでいろいろな小売店で使われている。今、戦国時代で、ひとつのところに投資して、何年持つのかわからない。費用も提案者がどれくら

い持ってくれるかわからない。市の予算を当てにしているのか、提案者がもってくれるならいいが。すごく面白い話で、実施すると注目される事業であるが。

(今坂委員) IT に詳しくない私からするとよくわからない。取り組みのねらいで、若い世代から高齢者とあるが、高齢者はもちろん、中高年も無理。バイタルデバイスなどわかるが、システム導入のランニングなど意味がわからない。本当にバイタルデータが必要な世代にとって利用ができないのでは。健康オタクで IT に詳しい人ならいいが、実際どれだけの人が興味を持つかわからないと思う。

(事務局) 今の件について、平成 27 年度の地域コミュニティ支援補助金の資料の 3「防犯パトロールで健康管理と維持増進事業」をご覧いただくと、出水南校区の防犯パトロールで健康管理と維持増進事業と、内容については平成 28 年度の提案事業とほぼ同じになっている。こちらは防犯パトロールをしながらダイエットで健康になろうというコンセプトで事業を企画。地域コミュニティ支援補助金なので半分は自己負担という形になっているが、事業費 28 万 9 千円で補助額は、14 万 4 千円。こちらは、今年度既に採択されている。

また、補足で、今回の提案事業の経費を積算してもらったところ、1 校区 100 名程度を対象として実施すると初期投資で 285 万円、ランニングコストで 100 万円かかるとのこと。事業として厳しいと考えている。

(古賀委員) ご意見、感想の交換ということでもどめる。もう少し資料が整ったところ 10 月で合否を決めたい。

(谷川会長) 2「バイタルデータデバイスによる健康づくり」について、私どもは校区の皆さんと一緒に健康寿命を延ばそうと若い世代を含めながら活動しているが、万歩計を最初の研修で配るとすごい反響。皆さん集まってこられてきっかけがないとなかなか継続しない。継続していくためには、ところどころでいろんなことをしていく必要がある。認知症予防で、歩くことを進めたり、記録をしたり。機械をいれて何をやるのか、土台づくり、健康とはなにかという意識づけが必要かなと思う。

(古賀会長) 合否は次回ということだが、今回語りたいのが、平成 25 年度は 26 年のアイデアを決めるときに作業部会を設置した。昨年度は、提案者と事務局で打ち合わせてもらい、懇話会の委員さんにもアドバイスをもらい、作業部会は作らなかった。今年度の提案は、あらためて作業部会を作る必要はなく、事務局と提案者、委員さんの中で知識のある人にご意見をいただくという柔軟な形で進めたいがいいか。

意義なし

(古賀会長) 平成 28 年度については、作業部会は設けない。提案者と事務局で話をし、委員のみなさんに必要なアドバイスいただくという形で進める。

(3) その他について

(鳥崎委員) 平成 27 年度のコミュニティづくり支援事業の採択された事業について、託麻原校区の「託麻原校区町内支え合いチームづくり事業」がいいと思う。高齢化社会に対応する時、どこができるか何ができるとしたらいいかということを考えるとき、本当は、こういったアンケート調査をしたい。高齢者が実際どんな取組みを待っているのか、自治会関係がどんなことを待っているか、調査をし、その結果をみて必要なことを考えたいが、なかなかそんなノウハウもない。やろうという人員も手立てが付かない。その中で校区が手を挙げてやっていただけるとはとてもいい。どの校区も同じ結果になるとは思わないが、参考になると思う。これが採択されていいことだと思う。

(古賀会長) 昨年度、地域福祉計画をつくった。3回目の計画だったが、初めて社会福祉協議会の活動計画と一体化したものを作ろうとなり、熊本の地域福祉計画は、社協の事業活動計画となった。そういったことを活かすために託麻原校区の地域社協のほうで取り組みをしていると思う。高齢福祉課からもサポートがあるのでは。是非、この成果を来年度以降受け止めて広げるようにしたい。のコミュニティづくり支援事業の応募が少ないというお話なので、今後、拡充していけばと思う。

(古賀会長) その他何かあるか。ないようなので、第2回の中央区まちづくり懇話会を終わらせていただく。

(事務局) 平成28年度は、委員の皆さんのご意見をもとに提案者と事業についてつめていく。次回の開催について、10月26日の月曜日午後3時から開催する予定。